

萩往還一升谷の植物相 その1

このレポートは、2023.8.30に実施された樹木医にして語り部の会のアドバイザーでもある藤原俊廣先生による「萩往還一升谷の植物相」研修受講の際のメモと撮影した写真によって、当日見た植物の名前と写真と簡単な説明を加えたものである。ただし、あくまで古谷のメモした植物のみである。そして、勘違い、聞き間違いなどの可能性が十分にあるので、誤りを発見された方は、古谷までお知らせいただくようお願いします。

- 日時 2023.8.30 09:50 釘切バス停 出発
12:30 明木乳母の茶屋 到着
- コース 一升谷
- 参加者 語り部 17名



3【ウツボグサ】五文蔵峠入口

実際に見たのは、すでに枯れかかっていて茶色になっていた。ウツボというのは海にいるウツボのことではなく、円筒形の花穂が弓矢を入れる入れ物(ウツボ)に似ていることから付けられたとのことある。



1【オトギリソウ】五文蔵峠入口

黄色の花。この草を原料にした秘伝薬の秘密を弟が隣家の恋人に漏らしたため、鷹匠である兄が激怒して弟を切り殺し、恋人もその後を追ったという伝説がある。花言葉は「怨念」「迷信」。



2【アキノタムラソウ?】五文蔵峠入口

いきなりオカシイ。メモにはタムラソウと書いているが、ネットで確認すると、ちょっと違う。聞き間違い、メモ間違いと思われる。正しくは、何と言う草花なのだろう。アキノタムラソウか。

4【ウリハダカエデ】五文蔵峠入口

紅葉すると以下の通り。説明文には黄色に紅葉するとあるから、違う木かも知れない。ただし、位置的にはこれだと思うのだが、どうだろうか。





5【クズ】 五文蔵峠入口

どこにでも見られる厄介者。かつてアメリカに日本から飼料として持ち込まれて、今は駆除に苦労しているのだとか。根から葛粉が取れる。秋の七草のひとつである。



8【コシアブラ】 五文蔵峠入口

その新芽は、タラノメ同様に山菜として珍重される。葉は5枚の小葉からなるのが特徴。収穫するのは4~5月頃とのこと。

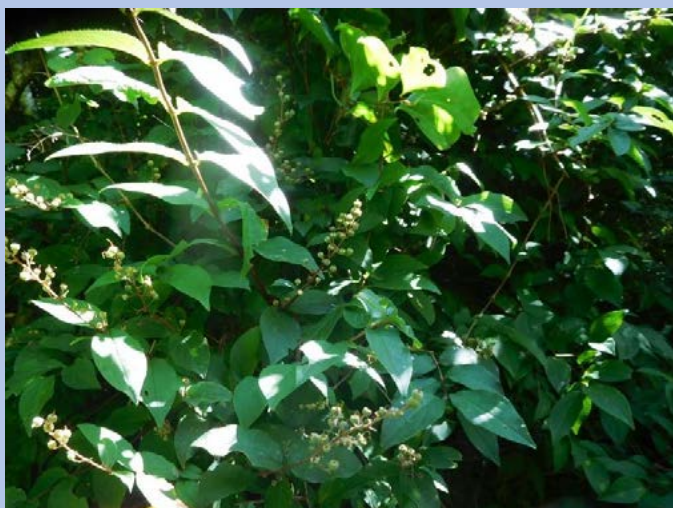


6【クロモシ】 五文蔵峠入口

枝は高級爪楊枝として使用される。爽快感のある香りがする。



藤原先生、コシアブラの葉を持って解説中。この場所はオリジナルな石畳が見え始めるあたりである。この時ばかりは石畳には誰も関心を寄せず、藤原先生の解説に聞き入っていた。



7【ウツギ】 五文蔵峠入口

ウツギは「空木」とも書き、幹が中空なのでその名がついた。別名「卵の花」とも言い、白く可憐な花が咲く。



9【ユズリハ】 五文蔵峠山頂付近

葉は有毒。新しい葉が開いてから古い葉が落ちることからこの名がついた。世代が絶えることなく続く縁起の良いものと考えられて正月飾りにも使用される。かつて我が家ではお供えの餅の下に敷いたような気がするが・・・



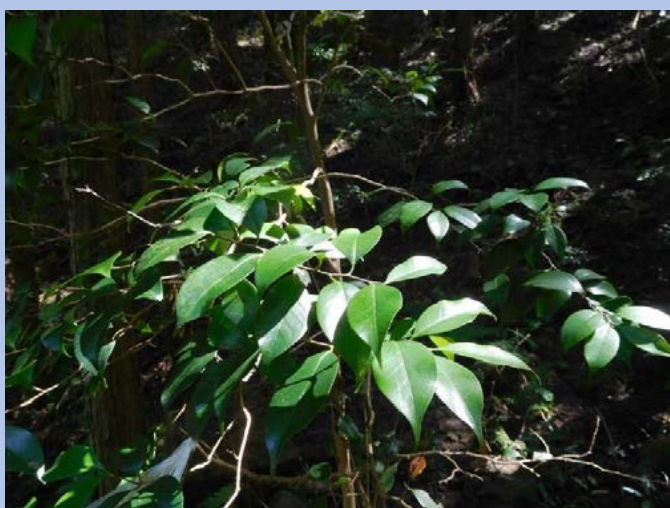
10【ガクウツギ】一升谷上部

この写真は昨年5月17日に撮影したもの。白い花が可憐。



13【サツマイナモリ】一升谷上部

この写真は、2017.4.22に撮影したもの。萩往還の中では一番好きな花である。



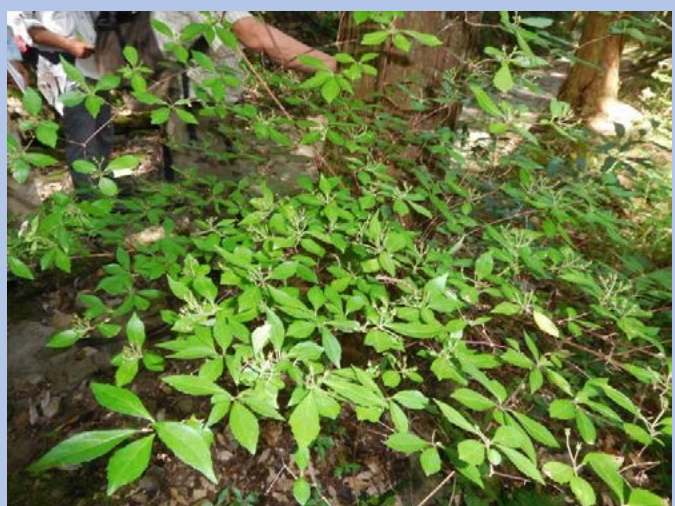
11【ヤブツバキ】一升谷上部

ヨーロッパでは「冬のバラ」とも言われる。赤い花は鮮やかである。ポロリと落ちることから武士の家には植えられなかったという説もあるが、これは誤りで、むしろ潔いとして珍重された。



12【マムシグサ】一升谷上部

すでに花は散って、赤い実をつけていた。花が咲いている頃の様子はページ右をご覧ください。2019.4.8撮影したもの。



14【コガクウツギ?】一升谷上部

メモと写真の順番が一致しないので、今一つはっきりしない。ご存知の方は是非お知らせ下さい。